

雜

錄

東洋製鐵株式會社狀況

昭和7年6月1日より昭和7年11月30日に至る第30期營業報告書、財産目錄、貸借對照表、損益計算書並に利益金處分に係る計算書を調製し株主に報告する所下の如し。

營業報告書 (12月9日付)

1、定時株主總會 昭和7年6月28日東京市麹町區丸ノ内1丁目2番地日本工業俱樂部に於て第29回定時株主總會開催取締役社長男爵郷誠之助氏議長となり第29期決算に係る件は原案通り承認可決し退任取締役慰勞金贈呈の件は可決の上重役會一任に決議せり。

1、戸畑工場に係る事項 鐵鋼業界は最近傾に活況に向へるも當期間に於ては現在熔鐵爐2基の内300瓩爐1基の運轉をなし270瓩爐1基は引續き作業休止中なり。製鐵所より受くる工場使用料昭和7年度分金額は當期末に於ては未だ決定に至らざるに付不取敢上半期分に對する内入として金10萬圓也を11月28日受領せり。

1、會計事項 戸畑工場用地此坪數65萬5,698坪は近時附近發展に伴ひ從來の帳簿價額は時價に比し著しく安低なるを以て當期に於て詳細實地に就て之れが調査の上評價替を爲し同時に其増加額771萬8,566圓90錢は全部之を建設勘定の償却に充當せり。前回株主總會決議に係る取締役退職慰勞金は當期に於て準備積立金中より支出充當せり。

1、株式事項 株式總數72萬株中當期に於ける異動數は9萬1,594株、此件數1,135件、又期末株主數は6,538名にして前期末に比し100名を減ぜり。

財産目錄 昭和7年11月30日現在

未拂込株金	5,400,000.00	貸付金	2,500,000.00
用地	16,228,288.57	受取手形	235,199.31
礦區	3,228.07	假出金	184,440.97
本店地所	28,809.00	預金勘定	1,456,602.05
什器	4,929.50	現金	538.00
有價證券	1,103,245.00	合計	39,409,927.03
建設勘定	12,264,646.56		

貸借對照表 昭和7年11月30日現在

資産の部(借方)		負債の部(貸方)	
未拂込株金	5,400,000.00	株金	36,000,000.00
用地	16,228,288.57	法定積立金	218,500.00
礦區	3,228.07	準備積立金	880,000.00
本店地所	28,809.00	未拂配當金	11,577.85
什器	4,929.50	假受金	928,844.31
有價證券	1,103,245.00	前期繰越金	1,213,596.75
建設勘定	12,264,646.56	當期利益金	157,408.12
貸付金	2,500,000.00		
受取手形	235,199.31		
假出金	184,440.97		
預金勘定	1,456,602.05		
現金	538.00		
合計	39,409,927.03	合計	39,409,927.03

損益計算書 自昭和7年6月1日至昭和7年11月30日

収入の部		支出の部	
工場益金	100,000.00	經費	29,507.79
本年度料金未決定に付上半期分に對する内入金		差引當期利益金	157,408.12
利息	68,089.93		
雜益	18,825.98		
合計	183,915.91	合計	186,915.91

利益金處分

此處分	
當期利益金	157,408.12
前期繰越金	1,213,596.75
合計	1,371,004.87
法定積立金	8,000.00
株主配當金 (一株に付金20錢)	144,000.00
後期繰越金	1,219,004.87
以上	

重役氏名 取締役社長男爵郷誠之助、専務取締役西野惠之助、取締役大橋新太郎、藤山雷太、麻生太吉、鮎川義介、高木陸郎、中川小十郎、監査役原富太郎、有賀長文。

世界産銅業者協議會解散並銅相場

(ニューヨーク) (昭和7年12月11日著在ニューヨーク井上商務書記官代理電報)

世界産銅業者協議會は其後ローン、アンテロープが自社産銅割當増加要求を固執せる爲話纏らず、12月9日ユニオン・ミニエル・デュ・オー・カタンガの代表も歸國するに至り、結局何等協定を見ずして解散せる趣なるが、此結果は來年より生産費安のアフリカ産銅増加を來し、市價先行益々下押と爲り、次第に生産費高の産銅業者を驅逐することゝ爲り、終局には却て斯業の根本的安定を齎すべしと觀る向も有り。尙米國産銅業者は1ポンドに付4セントの關稅保護に依り、其協定不成立の影響を受くること比較的輕少なる可く、今後米國內に於ては互に協調を保ち、生産を消費總量程度に保持することに一致したる由傳へらる。

當地銅市況は連日軟化、12月9日相場、歐洲港渡CIF5セント乃至5セント1/10但し米國內地相場は不變、5セント乃至5セント1/4(海外經濟事情550)

チリー銅産業近況(通商局) 銅產出量に於てチリーは米國に次ぐ。即1929年度の數字を見るに、世界の産銅總量は46億3,600萬ポンドにして、内米國2,480,000,000ポンドにして、内チリー659,000,000ポンド、以上兩國を除く自餘の諸國は1,455,000,000ポンドである。チリーに於ける米國系3大會社は國內産額の695,000,000ポンド(1929年)に對する9割即620,000,000ポンドを產出し、現在フランス系の1會社及其他の小規模なる數會社を除き事業を繼續しつつあるものとしては之等のみである。

以上米國系3大會社とは The Andes Copper Company, The Chile Copper Company 及 Braden (Kennecott) Copper Company で、前2者はアナコンダ系に屬し、最後はグッゲンハイム系に屬するものである。次表は1928年、1929年及1930年(10箇月間)の諸會社生産高を示すものである。(單位噸、純分銅)

會社名	1928年	1929年	1930年1月-10月
Andes Copper Company...Bars	47,506	54,935	40,461
Braden Copper Company...Bars	99,007	79,980	56,511
Chile Copper Company...Wire Bars	120,233	136,341	67,922
M'Zaita (Chagres)...Bars	2,527	3,138	3,115
Naltagua and Disputada...Bars	5,551	6,137	4,228
Tacopilla Ores and Concentrates	5,696	5,629	3,993
Poderosa...Concentrates	2,235	2,548	1,374
Gatico	3,217	3,313	2,411
合計	285,972	292,021	180,015

1930年度の銅產額は216,018噸と見積られて居る。尙前表の數字は主要會社のみの生産額を示したるものなるが、其の外1929年

度には歐米方面に 73,672 吨の原鑛積出され（之が純分銅約 8,000 吨）、結局總出額は 300,000 吨を超えて居る。世界的銅の生産過剰の結果値段の下落を招來した爲、大會社は平常時の 2 割 6 分 5 厘に限産を協定したが、チリー國內に於ても 1929 年下半年期に於てこそ 1 時的値段の好調につれ生産状態は活潑であつたが、1930 年の上半期末に至りポンド當り 18 セントより 10 セントへの値下りの爲、諸會社は一様に限産を實行し、限産率 5 割に達するものあり、甚しきは完全に事業を閉鎖するに至つた小會社もあつた。従て 1930 年度は前年度に比し 8 萬吨以上の減産を生じ、1931 年度も何等かの反動を生ぜざる限り減産率は益々増加するものと見られて居るが、最近の状态に於ては利益を擧げ得る會社は殆どなく、あれば例外とされて居る。

1931 年 12 月政府は鑛業保護獎勵金交付法を通過せしめたがニューヨーク電氣銅がポンド當り 7 セント以下の相場を持續する限り、労働者 1 人に付 1 日 4 ペソの補助金を交付することとし、相場の上昇に連れ漸減せらるゝものとされて居る。尙銅 (Bar Copper) 生産者にしてチリー産燃料を用ひ且生産額年 1 萬吨以上のものに對しては吨當り 100 ペソのボーナスを與へることになつて居る。其法律に依り事業を續け得ることとなつた會社もあるが、大部分小規模會社である。

チリー國政府が銅産業關係からの稅收入其他に依り受けつゝある歳入額は莫大の額に達して居るが、他の歳入財源が減少しつゝある今日、以上財源に依據する處は益々重要性を加へて居る。然しながら銅値段が下落し、ストック品も 1 箇年の消費高以上に達して居る現在の状態で、會社を益々困難ならしむる如き政策は政府としても採らないであらうが、又一方會社側としても政府に向ひ減稅を要求するが如きは不可能であらう。

次にチリー産銅は勿論殆ど總て輸出されて居るが、仕向地を見ると米國が筆頭で 6 割を占めて居る。最近の精銅の輸出額を見るに 1921 年の 53,930 吨より 1929 年には 324,959 吨に増加し、1930 年度は 209,026 吨に減じ、1931 年度は 219,009 吨と幾分見直して居る。大戰直後は殆ど米國に向け輸出されて居り、其他には英國、フランス、日本、イタリー及ドイツに少量づゝ仕向けられて居たが、其後若干の歐洲諸國が仕入國に加はり、1931 年には初めてソヴェト聯邦が仕入國に加はつて居る。斯の如く米國以外の諸國への輸出は増加しつゝあるが、依然として米國は第 1 位に居り、英國は第 2 位である。米國へ輸出された銅は米國に留まる譯ではなく、米國は多額の銅及銅製品を輸出して居る。従て加工輸出さるべき銅の輸入稅免除の法律がある。

1930 年度に於て 3 大米國會社が給料、收入稅、支給品の購入、運賃、輸入稅、其他に支拂つた額は 236,175,248 ペソ即 28,800,000 ドルに達して居る。最近の不況の結果多數の失業者を出し、硝石及銅に關係ある事業は立行なくなつて居り、硝石及銅の市場が盛にならぬ限り、チリーの繁榮は取戻せない。現在では最低の生産費を以てしても尙全く利益を期待し得ない程に値段が下落して居り、限産に依り價格を引上げんとすれば尙一層經濟的條件は悪化し、更に人員を減少せしむることとなり、一般的失業者を増加するの結果を生じて居る。

然しながらチリーの銅産業に就きては一般に之が更生を確信して居るものゝ如く、米國の銅資源は限りあるものとされ、將來之が涸渴せる曉はチリーに於ける莫大の埋藏量は非常な價值を持來すものとの意見が以上の根據となつて居る。チリーに於ける米國 3 大會社

の所有に係るものゝみに就きて見るも、2,000 萬吨の銅（純粹のもの）即アメリカ大陸全體の 5 割と見積られて居り、世界中の今日迄知られたる埋藏量の 4 割 5 分に達すと云はれて居る。従て今日急速なる回復は之を望み得ないものとしても、漸次的に良好なる状態に復歸し、過去に於ける如く再びチリー銅産業は更生し盛大になるものと信ぜられて居る。（コンマース・リポート其他に依る）（海外經濟事情 5・50）

英國イムペリアル、ケミカル、インダストリーズの石炭乾溜研究（昭和 7 年 11 月 16 日附在ロンドン松山商務參事官報告）

イムペリアル・ケミカル・インダストリーズのビリンガムに於ける研究所では、過去數年來石炭の低温乾溜に依る發動機用液體燃料の製出を研究中であつたが、最近英國輸入ペトロルの値段高騰するに至つたので、該研究に依る液體燃料製造を商業的に營爲する可能性が生じたと説く向がある。そしてイムペリアル・ケミカルは年 21 萬 3,000 噸の發動機用液體燃料を製出せんとせる計畫を有し、之に要する石炭は 85 萬吨であると傳へられて居る。尙其の報道に關聯しイムペリアル・ケミカルが前記ビリンガムへ資本金 1,000 萬ポンドで補助會社を設立する筈で、略其の計畫は出來上つて居るとの噂も行はれて居るが、同社の幹部は之を否定し同社では石炭液化の商業的進展を常に研究中ではあるが、液體燃料製出に關し未だ何等方針の確定したものは無いと發表する所があつた。

以上の報道が如何なる程度迄事實に基いて居るやは不明であるが、現在の英國輸入ペトロルの關稅はガロン 8 ペンスであり、そして昨年の總會に於ける I. C. I の Sir Harry McGowan の言に徴するに、I. C. I は 1 ガロンに付 7 ペンスの費用で石炭より液化燃料を生産することが出來、尙今後の研究如何に依りては之よりも低廉に生産出來るであらうと云ふことであるから、現在の關稅が永續すると極つて居れば I. C. I. としても或は本氣に生産に着手するかも知れぬと思はるゝも、1,000 萬ポンドの補助會社設立云々は多少誇張に過ぎるの感があつて、恐らく I. C. I. としては政府の保護政策、少くとも現在のペトロル輸入稅の永續性に關し、何等かの確信を得る迄は事業開始に至るまいと見る向が多い。（海外經濟事情 5・50）

銑鐵供給豫想 銑鐵共販會社では 1 月 11 日丸ビル事務所に販賣店並に問屋との定例打合せを開催、現下の市場對策問題を議題として先づ小日山專務から會社側の意向である對インド銑問題に關する銑鐵自給自足につき説明あり、次いで一部に傳へられる本年度銑鐵供給不足説はとるに足らない逆宣傳で現に 35 萬吨のストックを有してあるが、唯近來の業界好轉から思惑を恐れて抑制策に出てゐるのでもし眞實の需要があるならば必ずしも賣惜しむものでない所以を説明し今後の市場統制確保を求めた。

因みに最近の需要激増は昨年末において契約した 2 月渡し 13 萬吨に更に 2 萬吨の追加要求が大阪、名古屋方面から申込まれた、従つて第 1・4 半期の需要は 26 萬吨を突破するものと見られてゐる。（中商）

米國過去 1 ヶ年の鐵鋼生産高（12 月中は特に減少）アイン・エーザ誌並にアメリカ鐵鋼協會發表、昨年 12 月中のアメリカ鐵鋼生産高は次の通り。（單位千吨）

		1 月以降累計		前年同期累計
銑	鐵	546	8,687	18,276
鋼	鐵	845	13,105	24,890

〔備考〕過去 1 年間の比較は次の通り（單位千吨）

	銑鐵	鋼鐵		銑鐵	鋼鐵
1 昨年12月	980	1,301	7 月	571	793
昨 年 1 月	973	1,461	8 月	532	832
2 月	964	1,460	9 月	592	975
3 月	967	1,411	10 月	645	1,069
4 月	853	1,240	11 月	631	1,015
5 月	784	1,107	12 月	546	845
6 月	628	897			(中商)

米國製鋼會社註文殘高 (12 月末現在) 12 月末におけるユー・エス・スチール會社の鋼鐵註文殘高は 196 萬 8,000 吨である、これを過去 12 ケ年の同期及び最近 12 ケ月と比較すれば次の通り (單位千吨)

過去 12 年	最近 12 ケ月
1920年12月末	1 昨年12月 2,735
21年同	昨 年 1 月 2,648
22年同	2 月 2,546
23年同	3 月 2,472
24年同	4 月 2,327
25年同	5 月 2,177
26年同	6 月 2,035
27年同	7 月 1,966
28年同	8 月 1,970
29年同	9 月 1,985
30年同	10 月 1,997
31年同	11 月 1,938
32年同	12 月 1,968

(中 商)

内外最近刊誌參考記事目次

The Foundry, Nov., 1932.

- Accuracy Features Cylinder Cores. pp. 12-14.
Loam Mold for Large Steel Casting. H. V. Fell. pp. 20-21.
Iren for Pressure Castings. H. H. Judson. pp. 24-25.
Making Manganese Bronze. Charles Vickers. pp. 28-29.
Prevent Losses with Proper Gate and Risers. Part Dwyer. pp. 39-42.
Add Alloy in Form of Briquets. Richard Tull. pp. 46-47.

The Metal Industry (London), Nov. 4, 1932.

- Note on Brass Casting. F. A. Livermore. pp. 439-440.
The Protective Action of Zinc Plates in Boilers. C. O. Bannister and R. Kerr. pp. 441-443.
American Institute of Metals—Abstracts of some of the Papers. pp. 444-445.
Some Reactions Occurring in "Hot-Dipping" Process. Edward J. Daniels. pp. 447-450.

The Metal Industry (London), Nov. 11, 1932.

- The Manufacture of Electric Cables. G. Martinez. pp. 463-465.
The Protective Action of Zinc Plates in Boilers. C. O. Bannister and R. Kerr. pp. 467-470.
The Constitution of the Lead-Tin Alloys. D. Stockdale. pp. 471-473.
German Non-Ferrous Metal Market in October. pp. 475-476.

The Metal Industry (London), Nov. 18, 1932.

- An Extrusion Problem—Rubber Trade Methods Applicable to Non-Ferrous Metals. A Special Contributor. pp. 487-488.
Cluster Mills, Four-High Mills, and the Trend of Rolling Mill Design. E. L. Williams. pp. 489-490.
The Manufacture of Electric Cables. G. Martinez. pp. 491-494.
Practical Plating—Plating Shop and Plant. II. Layout. E. A. Ollard. pp. 497-499.
Ultra-Rapid Nickel-plating in France. Marcel Ballay. pp. 499-500.
The Electrodeposition of Cadmium from Cadmium Sulphate Solutions.—Part I. S. Wernick. p. 500.

The Metal Industry (London), Nov. 25, 1932.

- Metals Used in Chemical Industrial Plant. Chas. J. Elliott. pp. 511-513.
American Institute of Metals—Abstracts of Some of the Papers. p. 514.
Non-Ferrous Metals in Railway Electrification. Francis A. Westbrook. pp. 515-516.
New Vacuum-Furnace Design. Kenneth K. Kelley. pp.

517-518.

A.S.T.M. Research Activities. pp. 519-520.

The Constitution of the Lead-Tin Alloys. D. Stockdale. pp. 521-523.

The Metal Industry (London), Dec. 2, 1932.

Practical Notes on the Installation and Upkeep of Thermo-Couple Pyrometers. F. J. Brookes. pp. 535-537.

The Use of Fuel Oil in Foundries. T. F. Unwin. pp. 539-540.

Mechanical Properties of Nickel Wires. C. E. Ransley and C. J. Smithells. pp. 541-543.

Practical Plating—Plating Shop and Plant. II. Layout. E. A. Ollard. pp. 545-546.

Economic Importance of the Electrochemical Industries. C. L. Mantell. pp. 547-548.

The Metal Industry (London), Dec. 9, 1932.

Practical Notes on the Installation and Upkeep of Thermo-couple Pyrometers. F. J. Brookes. pp. 559-561.

Metals Used in Chemical Industry Plant. Chas. J. Elliott. p. 562.

Hot Brass Pressings. J. Willis Beard. pp. 563-564.

Heat Treatment Without Detrimental Finish. pp. 565-567.

The Use of Fuel Oil in Foundries. T. F. Unwin. pp. 568-570.

Temperature Control by Oil Fuel. pp. 571-572.

Metal Industry (New York), Dec., 1932.

Non-Ferrous Metals in the Aircraft Industry. Francis A. Westbrook. pp. 463-465.

Nickel in Foundry Brasses and Bronzes. pp. 466-467.

Powdered Metals by Electrolytic Methods. Joseph Rossman. pp. 468-469.

Properties of Zinc Base Die Castings. pp. 470-472.

Industrial Metal Degreasing. pp. 473-474.

Recent Developments in Metal Lacquers. Kenneth R. Longnecker. pp. 475-476.

Heat Treating and Forging, Nov., 1932.

Defects Caused by Improper Heat Treating. Eugene W. Nelson. pp. 633-634.

Normalizing Tin Plate. Edward S. Lawrence. pp. 635-637.

Metallurgy of Engine Valve Steels. Part II. J. R. Handforth. pp. 638-641.

The Gaseous Cementation of Steel. Part III. E. C. Cook. pp. 642-644.

Development and Application of Macro-etching. H. G. Keshian. pp. 645-646.

Diffusion of Flame Combustion. H. C. Weller. pp. 649-651.

A New Development for Electric Furnaces. J. E. Oram. pp. 654-655.

Savings Obtained by Use of Suitable Burners. H. M. Heyn. pp. 656-657.

Zeitschrift für Metallkunde, Nov., 1932.

Über Umwandlungsvorgänge im β -Messing und in β -Silber-Zinklegierungen. J. Weerts. s. 265-269.

Über die Umwandlungen bei der Stahlhärtung. F. Wever. s. 270-275.

Die Martensitkristallisation im Filmbild. H. J. Wiester. s. 276-277.

Studien zum Ausscheidungsvorgang an aushärtbaren Silizium-Nickellegierungen. O. Dahl. s. 277-281.

Beitrag zur Kenntnis des Induktions-Tiegelofens und seiner Metallurgie. M. H. Kraemer. s. 281-284.

Mitteilungen der Deutschen Gesellschaft für Metallkunde. Bericht. s. 285-288.

(若 林)

金 屬 第 2 卷第 12 號 昭和 7 年 12 月

不銹鋼の性質と其用途

前 川 清 p. 522

近代輕合金の瞥見

渡 瀬 常吉 p. 525

合金の狀態圖

清 水 要藏 p. 531

北 光 第 34 號 昭和 7 年 12 月 1 日 私田鑛山專門學校

輕金屬ベリリウムに就て

H. K. p. 18

本邦産亜鉛鎔中に含まるゝ稀有金屬の研究 今 泉 善夫 p. 35

露天掘探掘用シヨベル機に就いて

内 田 藤兵衛 p. 45

石炭灰分のスペクトル分析

大山良一外2名 p. 57

金のスペクトルに對する珪酸の妨害作用に就て

廣谷政毅、中山浩輔 p. 60

工業化學雜誌 第35編 第12冊 昭和7年12月

耐火物に關する研究(第7報)耐火煉瓦に對する

新吸水試験法に就て 中本 實 p. 1353

耐火物に關する研究、(第1報)豫備實驗、粘土

の新工業的示成分析に就て 青 武 雄 p. 1413

(第2報)豫備實驗、河東磁土の脱水現象に及ぼ

す接觸劑の作用 東 武 雄 p. 1415

海外經濟事情 第5年 第48號 昭和7年12月5日

銅の生産販賣等に關する世界産銅業者協議會狀

況(昭和7年12月1日著在=ニューヨーク井

上商務書記官代理電報) p. 6

イタリー國セメント工業及製油業(昭和7年10

月10及同19日附在ミラン井上領事報告) p. 40

中央アフリカの銅坑事業及葡領西アフリカ最近

經濟事情(昭和7年9月17日附在ロンドン松

山商務參事官報告) p. 44

資源 第2卷 第2號 昭和7年11月

技術應急團の創設に付て 宮 島 信夫 p. 1

工場經營研究資料 山 田 秀三 p. 74

日滿重要資源需給對照圖表 p. 134

重要資料目錄(2) 石油) p. 142

電氣學會雜誌 第52卷 第12冊 昭和7年12月

礦山用キャブタイヤ、ケーブルの設計に就て

山 本 次 p. 933

理化學研究所彙報 第11輯 第12號 昭和7年12月

銅を主成分とする銅-錫-亜鉛合金の平衡圖に就て

山口桂次、中村勇 p. 1330

銅の破壊機構(其2)

黒 田 正夫 p. 1377

研究報告 Vol. XII No. 2 製鐵所研究所

珪素鋼板の電磁氣其の他の性質に及ぼす壓延の

影響及び焼鈍の效果に就いて 遠藤勝治郎 p. 1

チルドロール材質研究(第4)合金チルドロール

の研究 谷 口 光平 p. 1

朝鮮鑛業會々報 第12號

鑛業經營の合理化提唱 田 淵 動 p. 1

朝鮮の産金事業を通覽して 横堀治三郎 p. 2

明治専門學校學報 第3卷 第4號 昭和7年12月

3成分系合金の異相平衡に就て 中 川 維則 p. 243

電氣製鋼 第8卷 號12號 昭和7年12月15日

2,3の金屬材料の腐蝕疲勞に就て 遠 藤 彦造 p. 555

鐵-炭素系狀態圖中の2,3の平衡曲線に關する

熱力學的考察 佐 藤 知雄 p. 578

炭素鋼の磨耗抵抗に就て 金 友 濤聲 p. 599

土木學會誌 第18卷 第11號 昭和7年11月

軌條標準長に就ての調査 堀越一三、星野陽一 p. 1151

金屬の研究 第9卷 第12號 昭和7年12月

NiZn 2元系平衡狀態圖に就いて 田 丸 莞爾 p. 511

鐵と共存するアルミニウムの分離定量に關する

1考察 石 丸 三郎 p. 527

デニラルミンの熱處理及時效に伴ふ電溶壓の變

化に就いて

今井弘、荻谷正己 p. 530

海外經濟事情 第5年 第50號 昭和7年12月19日

世界産銅業者協議會解散並銅相場(=ニユーヨー

ク)(昭和7年12月11日著在=ニユーヨー

ク)井上商務書記官代理電報) p. 3

チリー銅産業近況 p. 46

日本鑛業會誌 Vol 48 No 570 昭和7年10月

輕金屬に就て 後 藤 正治 p. 937

アルミニウム工業 高 橋 本枝 p. 940

アルミニウムの製造 鈴 木 庸生 p. 963

鑄造用アルミニウム合金 山 口 桂次 p. 973

鑄造アルミニウム合金 大谷文太郎 p. 984

鍛鍊用アルミニウム合金 堀 口 貞雄 p. 994

鍛鍊用アルミニウム合金に就て 古田俊之助 p. 1017

電線としての輕合金アルドレイ(Aldrey) 岸 野 佐吉 p. 1027

アルミニウムの熔解 後 藤 正治 p. 1049

マグネシウム工業 大河内正敏 p. 1053

マグネシウム合金の一般 石 田 四郎 p. 1063

航空機構造材料としてのマグネシウム合金に就

て 古知幸次郎 p. 1071

マグネシウム輕合金の酸素アセチレン熔接及び

其熔接劑に就て 黒 田 三郎 p. 1075

マグネシウムの熔解 後 藏 正治 p. 1084

鑄物 第4卷 第12號 昭和7年12月

電氣乾燥爐に就て 鐵道省土崎工場 p. 1

主なる不良品罐過熱用疏水弁の鑄造に就て 海軍艦政本部 p. 7

釜砂に關する研究、大型乾燥爐の研究 楠 瀬 四郎 p. 9

熔接協會誌 第2卷 第8號 昭和7年12月

電氣熔接の現状 岡 本 越 p. 529

全電弧熔接製化學工業用壓力罐に就て

佐々木新太郎、伊東立吉 p. 540

熔接電弧に就て 岡 田 實 p. 550

建築に於ける電弧熔接の實際施工に就て 盛 道 雄 p. 560

日本鑛業會誌 Vol 48 No 572 昭和7年12月

錫、銅及金冶金に關する研究概報 渡 邊 俊雄 p. 1269

カーネル熔燒に就て 木 村 唯助 p. 1275

亜鉛電解に關する研究、第1報電流能率に及ぼ

す諸條件の影響 小 川 芳樹 p. 1289

マグネシウム輕合金の2,3の性質 石 田 四郎 p. 1297

燃料協會誌 第11年12月號

石炭より電氣へ 古 田 正康 p. 1735

高溫度測定に就て 森 武 保 p. 1748

東京都の煤煙防止對策 高野瀬宗吉 p. 1762

採鑛冶金月報 第10年 第12報 昭和7年12月

日本に於ける最初の金屬アルミニウムの製造の

經過に就て 林 明 p. 302

朝鮮鑛業會誌 第15卷 第4號 昭和7年12月15日

經濟生活から觀た昔の朝鮮の鑛物 今 村 鞆 p. 1

朝鮮に於ける金増産助成策に就て 加賀谷金之助 p. 41

アルミニウム工業の重要性 淺野末次郎 p. 53

電氣化學會誌 第56號 昭和7年12月

電解に依る有底肉厚ニッケル管の製作

- 龜山直人、岡宗次郎 p. 157
鉛及び鉛アンチモン合金の水素過電圧(第2報)
加藤興五郎、高瀬理三郎 p. 161
含銅硫化鐵より硫酸製造用亞硫酸を製すると同
時に銅を可溶性となし且つ砒素を捕獲する一方
法 武井武、立木健吉 p. 168
製鐵研究 第128號 昭和7年12月
製鋼用各種ドロマイトの品位の判定と其の應用
結果に就て 田所芳秋 p. 238
珪素鋼板の電磁氣其の他の性質に及ぼす壓延の影
響及び焼鈍の效果に就て 遠藤勝治郎 p. 262
不銹鋼板の機械的及び化學的性質 森寺一雄、森下眞 p. 284
工業化學雜誌 第36編 第1冊 昭和8年1月5日
瓦斯容量法に依る溶液又は固體中の炭酸定量法
八田四郎次 p. 1
液體に依る瓦斯の吸收速度の研究(V)炭酸瓦斯
の炭酸カリウム液に依る吸收(其2) 八田四郎次 p. 7
耐火物に關する研究(第3報)豫備實驗、河東磁
土の熱的及化學的性質並にムライトの得率に及
ぼす過熱水蒸氣の影響 青武雄 p. 19
水性瓦斯反應による水素製造觸媒の研究(第7報)
熱處理による $Fe_2O_3-Cr_2O_3$ 系觸媒の脱活(其2)
吉村倫之助 p. 31
水性瓦斯反應による水素製造觸媒の研究(第8
報)、酸化鐵-酸化クロム共存狀態のX線の觀察
(其2) 吉村倫之助 p. 36
大日本窯業協會雜誌 第41集 昭和8年1月1日
コソトル電氣收塵法と其の應用(其2) 志賀潔 p. 12
米國の窯業製品に關する工業規格に就いて(其1)
永井彰一郎 p. 22
機械學會誌 第36卷 第189號 昭和8年1月
鐵道軌條の受ける繰返彎曲 小野鑑正 p. 1
高温高壓氣罐用鋼管に就て 絹川武良司 p. 12
金屬匍匐の過程及其推移 清水篤藏 p. 7
應用物理 第1號 第2卷
亞酸化銅整流器を使用せる自記微光度計 淺田常三郎 p. 3
ツリジマイト(Fridymite)とクリストバライト
(Cristobalite) 水晶の高温變態の變態點に
於ける電導率の異常變化に就て(1) 三枝彦雄、清水定吉 p. 6
鑄造輕合金の析出硬化に就て 山口珪次 p. 14
エンジニアリング Vol. 21, No. 1 昭和8年1月
冶金學的に見たる我國の鑄鐵管 大屋正吉 p. 2
水道協會雜誌 昭和8年1月1日
鉛管接合法に就て 仲田聰治郎 p. 20
高級鑄鐵管に就て 清川雅衛 p. 43
支那鑛業時報 第79號 昭和7年12月15日
電氣抵抗探鑛法及び關東州内に於ける實測 木原三壯 p. 1
石灰石、苦石灰の酸分解度による鑑別試驗報告
安月敏良 p. 49
滿蒙の金鑛 p. 60
理化學研究所彙報 第12輯 第1號 昭和8年1月
切削抵抗に關する研究(第6報)、平削工具に作
用する切削抵抗 大越諄 p. 70
石炭時報 第8卷 第1號 昭和8年1月5日
日本に於ける石炭層の地質時代に就て 徳永重康 p. 2
工業雜誌 第69卷 第865號 昭和8年1月
世界に於ける規格統一事業の趨勢と我國の工業
品規格統一事業の狀況 後藤保清 p. 12
昭和7年度に於ける規格統一事業の概要 吉田永助 p. 1
研究報告 三菱航空機株式會社 昭和8年1月
簡易疲勞試驗法とNickel Chrome鋼の疲勞
限 須永信二 p. 1
砂型鑄造用 R. R. 系合金 渡瀬常吉 p. 27
ニッケル、クロム鋼に就て 關口次郎 p. 43

昭和7年11月中(八幡)製鐵所鉄鋼生産高表

鉄			鋼			材		
当月生産高	前月比較	1月以降累計	当月生産高	前月比較	1月以降累計	当月生産高	前月比較	1月以降累計
53,313	- 354	660,844	112,811	+ 1,254	1,098,071	93,849	+ 1,786	841,705

昭和7年10月主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産(單位噸)-減

(商工省鑛山局)

品 目	10月分			1月以降累計			
	昭和7年	昭和6年	比較増減	昭和7年	昭和6年	比較増減	%
鉄 鐵	93,053	90,043	3,010	971,284	891,402	79,882	1
普 鐵	24,932	24,765	167	290,124	301,974	-11,850	3
販 賣	209,745	171,811	37,934	1,495,570	1,521,661	-26,091	25
同 鋼	8,331	4,785	3,546	58,957	44,906	14,051	31
鍛 造	7,434	11,342	- 3,908	117,220	80,908	36,312	44
普 通	3,541	—	—	22,401	—	22,401	—
鋼 材	172,994	138,281	34,713	1,552,792	1,256,329	296,463	23

普 通 鋼 壓 延 鋼 材 內 譯

厚 0.7mm 以 下 鋼 板	22,691	24,158	- 1,467	237,373	212,275	25,098	12
其 他	30,247	21,112	9,135	244,592	236,159	8,433	4
棒 形 軌 線 鋼 其	38,909	41,932	- 3,023	403,628	323,571	80,057	25
	22,626	16,469	6,157	193,300	169,565	23,735	16
	23,113	9,477	13,636	195,478	101,035	94,443	93
	22,991	17,568	5,423	173,565	145,455	28,110	19
	8,933	5,847	3,086	78,277	501,157	28,120	56
	3,484	1,718	1,766	21,579	18,112	3,467	19

昭和 7 年 自 2 月 至 11 月 外 國 鐵 輸 入 高 (單位 噸)

(銑 鐵 共 同 販 賣 株 式 會 社)

月 次	輸 出 國 名					計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典	
2 月	24,187	356	101	—	102	24,746
3 月	18,300	—	—	204	102	18,806
4 月	16,986	173	—	—	—	17,159
5 月	12,655	559	—	—	102	13,316
6 月	11,636	559	—	—	10	12,205
7 月	6,509	508	5	—	102	7,124
8 月	—	—	203	—	—	203
9 月	1,909	—	—	—	—	1,909
10 月	2,476	—	—	—	—	2,476
11 月	3,958	—	—	—	—	3,958
1 月 以 降 計	113,734	2,694	309	311	418	117,466

昭和 7 年 10 月 中 重 要 生 產 月 報 拔 萃 (商 工 大 臣 官 房 統 計 課)

	1 0 月 中	前 月	前 年 同 月	1 月 以 降 累 計	
				昭 和 7 年	昭 和 6 年
金 銀 銅 硫 石 油 (原 油) 燐 酸 石 灰 炭 100 噸	1,094,304	1,056,773	1,021,005	10,253,455	10,196,973
gr	14,678,760	14,606,753	15,063,469	134,155,224	139,142,828
gr	6,134,768	6,087,273	6,333,060	59,261,178	62,432,678
kg	7,513	6,795	4,829	62,101	45,669
油 (原 油)	2,164,165	1,992,033	2,216,150	21,437,323	21,410,102
燐 酸 石 灰	200,438	198,470	241,464	2,110,191	2,557,353
炭 100 噸	330,321	294,301	293,259	3,021,565	3,027,609
油 (原 油)	81,411	74,174	69,621	843,625	727,599
燐 酸 石 灰	50,824	61,478	65,380	586,020	473,030

主 要 製 鐵 所 に 於 け る 鐵 鋼 材 生 產 (單位 噸)

(商 工 省 鐵 山 局)

一 減

品 目	11 月 分			1 月 以 降 累 計			
	昭 和 7 年	昭 和 6 年	比 較 增 減	昭 和 7 年	昭 和 6 年	比 較 增 減	%
銑 鐵 { 內 滿 地 朝 鮮 洲 鋼 片 一 品 材	91,975	86,818	5,157	1,063,259	978,220	85,039	9
普 販 同 鍛 普 通 鋼 壓 延 鋼 材	38,482	22,584	15,898	328,606	324,558	4,048	1
	198,237	176,163	22,074	2,093,807	1,697,824	395,983	23
	6,366	5,782	584	65,323	50,688	14,635	29
	9,179	7,802	1,377	126,399	88,710	36,689	41
	3,721	—	—	26,122	—	—	—
	189,053	125,153	63,895	1,741,845	1,381,487	360,258	26
普 通 鋼 壓 延 鋼 材 內 譯							
厚 0.7 mm 以 下 鋼 板	23,882	25,782	- 1,800	261,255	237,957	23,298	97
其 他	33,155	18,527	14,628	277,747	254,686	23,061	10
棒 形 軌 線 鋼 其	49,952	41,162	7,790	452,580	364,733	87,847	24
	23,339	11,682	11,657	221,639	181,247	40,392	22
	21,396	5,532	15,864	216,874	106,567	110,307	104
	21,561	14,800	6,761	195,126	160,255	34,871	22
	9,579	6,144	3,435	87,856	56,301	31,555	56
	7,189	1,629	5,560	23,768	19,741	9,027	46